

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代ドイツ語のAnglizismenに関する一考察 : clever, cool, smartの語義の受容
Author(s)	伊東, 沙織
Citation	広島ドイツ文学 , 35 : 1 - 20
Issue Date	2023-02-20
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053548">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053548</a>
Right	Copyright (c) by Author
Relation	



# 現代ドイツ語の *Anglizismen* に関する一考察 —clever, cool, smart の語義の受容—

伊東 沙織

## 1. はじめに<sup>1</sup>

現代ドイツ語では *Anglizismen* と呼ばれる英語由来の借用語を用いた表現が見られる。ドイツ語での *Anglizismen* の使用は特に口語で用いられることが多いが、その状況を批判的に *Denglisch* (ドイツ語英語) と呼称することもある。*Anglizismen* は 1945 年以降のドイツ語で顕著に見られる英語からの借用語であるが、ドイツ語史において他言語からの借用は決して真新しいものではない。6 世紀頃から 15 世紀頃は教会用語や法律関係の語彙をラテン語から借用し、12 世紀頃はフランスの宮廷文化がヨーロッパ各地へ多大な影響を及ぼし、その過程においてフランス語から中高ドイツ語へ多くの語が借用されている (Eisenberg 2011, 37f.)。1945 年以降の現代ドイツ語では、特に英語からの借用が多く、*Anglizismen* についての研究は数多く存在する。

本稿では先行研究で取り上げられてきた *Anglizismen* のうち、「賢い」「かっこいい」の語義として使用される形容詞 *clever, cool, smart*<sup>2</sup> を対象語とする。*Anglizismen* の形容詞は付加的に使用される場合は基本的にはドイツ語の文法に従い、ドイツ語に受容されていることが先行研究でも指摘されている。しかし *Anglizismen* のドイツ語での使用を言語学的に考察するには、形態的特徴の他にも、意味的特徴や統語的特徴も調査する必要がある。そこで本稿では多義的な形容詞のドイツ語への受容を焦点に、語義の選択借用について考察する。

## 2. ドイツ語で使用される *Anglizismen*

### 2.1 1945 年以降の英語の影響

英語のドイツ語への借用は 1945 年以前になる。18 世紀においてすでに、*Humour* (ユーモ

---

<sup>1</sup> 本稿は 2019 年 11 月 19 日 (土) に開催された西日本独文学会にて研究発表した「現代ドイツ語の *Anglizismen* 使用に関する一考察—類義語 *clever, cool, smart* の意味場の対立—」に加筆、修正を加えたものである。

<sup>2</sup> *smart* については深水 (2018) にて多義の受容はすでに調査済みのため、本稿では *clever* と *cool* の多義の受容を調査する。

ア), Pudding (プリン), Parlament (議会) が登場し, 19 世紀には Klub (クラブ), Roastbeef (ローストビーフ), Sport (スポーツ) が借用され使用されていた (荻野・齋藤 2015, 413f.)。20 世紀になるとさらに多くの語がドイツ語に借用され, その中には直訳借用の語も含まれている<sup>3</sup>。

次に, 戦後ドイツにおけるドイツ連邦共和国 (以下, BRD) とドイツ民主共和国 (以下, DDR) での *Anglizismen* の使用について見てみる。DDR では第一外国語としてロシア語が導入され, ドイツ語へも借用語として影響をもたらした。その例として *Bolschewik(i)* (ボルシェヴィキ), *Kolchos(e)* (コルホーズ), *Sowchos(e)* (ソホーズ) が挙げられる。一方の *Anglizismen* は, ロシア語を経由してドイツ語に借用された。その例として *Festival* (フェスティバル), *Kombine* (コンバイン), *Dispatcher* (作業主任), *Meeting* (政治的大集会) が挙げられる。ただし, *Anglizismen* の中には BRD と DDR で使用する語義の相違がある語もある。例えば, *Dispatcher* は DDR では「作業主任」であるが, BRD では「(工場・鉄道などの) 管制主任」, *Meeting* は DDR では「政治的大集会」であるが, BRD では「会合」として用いられていたとされている (Schmidt 2004)。

BRD におけるドイツ語への英語の影響はほとんど全ての生活領域にもたらされ, DDR よりもその影響は多大なるものであった。直接借用された語として, スポーツ分野では *Tiebreak* (テニスのタイブレイク), *Service* (テニスでのサーブ), 美容分野では *Moisture* (乳液), *Lip Gloss* (リップグロス), ファッション分野では *Coordinate* (コーディネート), *Dress-Shirt* (ドレスシャツ) 等がある。その他にも *Single* (独身者), *Kids* (子供), *Deadline* (タイムリミット) 等の *Anglizismen* の語が使用されていた (Schmidt 2004)。さらに疑似借用<sup>4</sup>, いわゆる「独製英語」としても英語はドイツ語に影響を与えている。

また, 英語の語彙をドイツ語の文法規則に従い使用する動詞や形容詞, そして独製英語<sup>5</sup> や英語の影響とみられる表現や統語変化も生じる。以下は一般的にドイツ語で表現される語句の例 (a) と英語の影響で統語変化が生じる例 (b) である。

---

<sup>3</sup> 直訳借用は借用元の言語で使用されている語を借用した言語の語で表現する。英語からの直訳借用語の例として荻野・齋藤 (2015) では, *Schlagwortwolke* (< tag cloud), *Kollateralschaden* (< collateral damage), *herunterladen* (< down load), *Suchmaschine* (< web search engine) が挙げられている。

<sup>4</sup> Schmidt(2004)では, 英語の形態素と英語と同様の造語法を用いる語構成として紹介している。その例として, *Quizmaster* を手本としてドイツ語では *Showmaster* (ショーの司会者), *Talkmaster* (トークショーの司会者) や *Dressman* (男性ファッションモデル) が挙げられる。

<sup>5</sup> 荻野・齋藤 (2015) では英語の単語にドイツ語の語尾をつけた混合形式を「独製英語」(*Denglisch*) と呼称することを示し, その例として *anklicken* (< click), *recyclen/ recyceln* (< recycle), *canceln* (< cancel), *downloaden* (< down load) を例として挙げている。また, 英語に存在しない「独製英語」として *Handy* (engl. mobile phone), *Talkmaster* (engl. talk show host) を例として挙げている。

- (1) a. [im Jahr]1989  
 b. \*in 1989
- (2) a. normaler  
 b. mehr normal (< more normal)
- (3) a. sich an etwas erinnern  
 b. \*etwas erinnern (< remember)
- 荻野・齋藤 (2015, 414)

(1)a,b は「1989年に」という表現である。ドイツ語では *im Jahr* と共に用いるか、年号のみで(1)aのように表記するのが一般的である。しかし、英語で一般的に使用される表現に影響され、(1)bのように前置詞 *in* のみとの共起で使用する例がドイツ語で観察できる。(2)a,b は形容詞 *normal* の比較級についてである。形容詞 *normal* は独英において同じ表記で同義である。*normal* の比較級はドイツ語では通常、(2)aのように語尾-*er* を付加させるが、英語では *more normal* として使用される。(2)b は英語の比較級の用法に影響され、*mehr normal* と使用する例である。(3)a,b は動詞 *erinnern* の用法についてである。「何かを思い出す」と表現する場合、ドイツ語では通常、再帰代名詞 *sich* と前置詞 *an* と共に用いて(3)aのように表現する。しかし英語の動詞 *remember* はドイツ語の *erinnern* のように再帰代名詞や前置詞は付加させない。その影響を受け、(3)b はドイツ語 *erinnern* を再帰代名詞と前置詞を用いることなく表現する例である。このように、英語からの借用は単純に語彙を借用するだけでなく、句や文構造を借用し、統語的にも影響を与えることもある。

18世紀以降から現在において *Anglizismen* の使用はドイツ語で年々増加傾向にある。特に、名詞の増加については新しい事物を説明するための語彙として、他の品詞より借用されやすいため顕著に見られる。動詞や形容詞については、借用語としてドイツ語で使用する際にもドイツ語の文法規則が適用されるため名詞と比較すると借用語の数は少ないが、動詞と形容詞についても名詞同様ドイツ語に取り入れられている (Burasova 2010)。

## 2.2 形態論的研究

*Anglizismen* がドイツ語で使用される際にはドイツ語の文法規則に従う (Eisenberg 2011: 238 f.)。以下の例を見てみよう。

- (4) Die Band spielte echt cool.
- (5) nach fairer Verständigung
- (6) die cleveren Gäste
- (7) sein progressiv gestyltes Coupé
- (8) \*sexy-e Erscheinung
- (9) \*?super-es Angebot

(10)\*top-e Leistung

Anglizismen の形容詞をドイツ語で使用する際には、述語的用法であれば語尾変化は無関係だが、付加語的用法で使用される場合は比較変化や語形変化が必要となる。(4)のように形容詞 cool が副詞として使用される際には語尾変化は不要である。(5, 6, 7) は文法上問題なく、Anglizismen の形容詞である fair, clever, gestylt はドイツ語の文法規則に従っている。しかし、(8) は sexy の開音語末音節が影響することでドイツ語の文法規則に従うことができず、(9, 10) はそれぞれの形容詞を付加語的に使用するのではなく Superangebot (super + Angebot) や Topleistung (top + Leistung) として複合名詞化して使用する方がドイツ語話者に好まれるため、文法的には問題ないはずであるが、変化語尾の付加が余剰に感じられると考えられる。このように Burmasova (2010) では Anglizismen がドイツ語の文法規則に適應しているかの判断でドイツ語としてすでに受容されているかを判断しているようだ。しかし(9,10) に見られるように文法上間違いはないが、使用上付加語的に Anglizismen の形容詞を使用せず、複合名詞化された語の方がドイツ語に適應する表現もある。

Eisenberg (2001) は Anglizismen の動詞がドイツ語で使用される際の問題点について指摘している。以下の例を見てみよう。

- (11)a. er recycelt
- b. \*er recyclet
- (12)a. recyceltes Papier
- b. \*recycledees Papier
- (13)a. ein gut gemanagtes Unternehmen
- b. \*ein gut gemanagedes Unternehmen (Eisenberg 2001)

(11)a,b は英語の recycle がドイツ語の動詞として統合される場合を示したものである。ドイツ語での不定詞は recyceln が考えられるが、人称変化は-eln 型 (angeln, segeln) 同様に3人称単数で(11)a のように er recycelt となり、(11)b の er recyclet とはならない。過去分詞は英語での表現が借用されドイツ語で使用されることもあるが、(12)a,b のような付加語的に使用される過去分詞の場合は(12)a のように recyceltes Papier となり、(12)b の英語の過去分詞を形容詞として語尾変化させた形は許容されない。英語の過去分詞の例文としてさらに(13)a,b は managen (英語: manage) の例である。これは managen の過去分詞が付加語的な使用例である。(13)a の ein gut gemanagtes Unternehmen は動詞 managen の過去分詞 gemanagt が付加語的に使用されている。しかし、(13)b のように英語の過去分詞 managed をドイツ語

の過去分詞を形成する接頭辞 *ge-* を付加した *gemanaged*<sup>6</sup> として形容詞の付加語的用法として使用することはできない。このように、形態的にドイツ語の文法規則に従った語形変化をする反面、英語の過去分詞を形容詞として語形変化することは、それが文法的であっても許容されないことがある。

## 2.3 統語論的研究

Anglizismen がドイツ語の文構造に与える影響は、2.1 で既に取り上げた荻野・齋藤 (2015) の例にみられるように、既にドイツ語で部分的に使用されつつある。さらに Anglizismen の形容詞の統語的特徴の研究として、伊東 (2021) は対象語 *clever*, *cool*, *smart* について①副詞的使用、②副詞との共起、②他形容詞との並列、④形容詞の名詞化、⑤最上級の単独使用を調査している。その中で⑤最上級の単独使用について (I) *Elativ* 説、(II) *möglichst*, *äußerst* などからの類推説、(III) 口語的単独使用説の3つの可能性から考察している。以下は対象語の形容詞の最上級が単独で使用される例である。

(14) *Definitiv coolst*, *identitätsstiftend*, *imagefördernd* - *große Worte*.<sup>7</sup>

(15)[...], *als coolst* *vorstellbare Krebspatientin* *mitten in der Chemotherapie*.<sup>8</sup>

(16) *Beide Klubs* *also* *haben ihre Pflicht cleverst* *erledigt* *vor der nächsten Verabredung*.<sup>9</sup>

(17) *Samtfilter über Stimme & Instrumenten, smartest* *Zwischenkriegs-Classics* *und...* <sup>10</sup>

(18)[...], *weil die als smartest* *angepriesene Lösung* *noch nicht verfügbar* *ist...*<sup>11</sup>

(伊東 2021)

(14)と(15)に見られる *coolst* は *cool* の最上級が文中で単独使用されている例である。形態的にはドイツ語の最上級の語形変化の規則に従って使用されているが、(14)は他のドイツ語の形容詞と並列されており、(15)では *coolst* が *als* の補語となっている。(16)は *clever* の最上級 *cleverst* の例である。形態的にはドイツ語の最上級の形成規則に従っているが、通常のドイツ語の統語規則とは異なり、最上級が単独で副詞的に使用されている。(17)と(18)は *smart* の最上級 *smartest* の例である。形態的にはドイツ語の文法規則に従って使用されているが、*Zwischenkriegs-Classics* の付加語として語尾変化なしで使用されており、(18)は形態的にドイツ語の文法規則に従って使用されているが、(15)と同様に *smartest* が *als* の補語となってい

<sup>6</sup> ただし、この場合は英語の過去分詞 *managed* の接尾辞が影響し、ドイツ語の過去分詞を形成する接尾辞 *-t* は省略されている。

<sup>7</sup> B09/APR.02313 *Berliner Zeitung*, 17.04.2009

<sup>8</sup> PRF11/MAI.00073 *profil*, 02.05.2011, S. 113

<sup>9</sup> RHZ13/MAI.05204 *Rhein-Zeitung*, 06.05.2013, S. 21

<sup>10</sup> PRF15/APR.00323 *profil*, 27.04.2015, S. 105

<sup>11</sup> <https://www.republik.ch/dialog?t=article&id=ad629d15-1a6e-4f73-b34f-5c3ab5817930&focus=5ee69ab7-012d-4d61-a48f-ae9418fe03e>

(2021年6月11日)

る。これらはドイツ語の最上級の一般的な使用と一致しておらず、ドイツ語の統語規則から逸脱しているように見える。

伊東 (2021) は抽出された例文について、Elativ としての使用と *möglichst, äußerst* などに見られる造語が *Anglizismen* では有効であるという説を否定し、口語的単独使用の可能性を示している。それは、ドイツ語の最上級は述語的・副詞的に使用される場合においては通常「am 最上級+en」、付加語的に使用される場合は「定冠詞と最上級+e」の形で使われるが、*Duden Grammatik* (2016, 374f.) の「口語的な場面では最上級を無変化で用いることができる」という規則に適応している。以下の例を見てみよう。

(19) Das Baby war allerliebste.

(Duden Grammatik 2016, 374)

(19)は原級 *lieb* の最上級 *liebste* に最上級の意味を強める接頭辞 *aller-* を付与して使用しており、最上級を無変化で述語的に使用している。ここで *Anglizismen* の形容詞と比較すると、(14)(15)(18)は述語的に使用され、(16)は副詞的に使用されている。(17)は *smartest* の後続の名詞が英語 (Classics) となっており、*smartest Zwischenkriegs-Classics* 全体が英語の規則によって形成された表現と考えることもできるため対象外とすると、最上級を無変化で述語的に使用している(14)(15)(18)は(19)の用法と一致する。*Anglizismen* が口語的な場面において使用されることを加味すると、*Anglizismen* の形容詞の最上級が単独で使用されることは口語的単独使用の立場であることが十分に考えられるとしている。

## 2.4 意味論的研究

借用元と借用先の語義の相違がある可能性もある。ドイツ語と英語は同系語族であり、言語自体が近似していることが影響し、他の言語が英語から借用する場合よりも容易にドイツ語へ借用されうるが、一方で誤認識による *Anglizismen* の使用で英語本来の意味範囲とは異なるコンテキスト内での使用のため、誤解や解釈の悪化、つまり本来英語で使用されている意味とは異なる、ドイツ語独自の意味を含有させることによる話者間での解釈の齟齬が生じると Dewald (2008) は指摘している。以下の表 2 はその例として Dewald (2008) が扱う形容詞である。

	英語	ドイツ語
Vital	gesund, kräftig, energiegeladen	lebenswichtig, kräftig
Eventually	schließlich, endlich	eventuell
Familiar	vertraut	familiär

表 2<sup>12</sup>

<sup>12</sup> Dewald(2008, 78)を筆者がまとめたものである。

表2は英語の *vital*, *eventually*, *familiar* の語義とそれらの語がドイツ語で使用される場合の語義を示している。*vital* は英語では「健康な」、「元気な」、「活気のある」(*gesund, kräftig, energiegeladen*) の語義を有する語だが、*Anglizismen* としてドイツ語に借用されると「生死にかかわる」、「元気な」(*lebenswichtig, kräftig*) の語義となる<sup>13</sup>。*eventually* は英語では「結局は」、「ついに」(*schließlich, endlich*) の語義を有する語だが、*Anglizismen* としてドイツ語に借用されると、ドイツ語に元々存在している *eventuell* の語義として使用される。*familiar* は英語では「親しい、よく知られた」(*vertraut*) の語義を有する語だが、*Anglizismen* としてドイツ語に借用されると、ドイツ語に元々存在している *familiär* の語義として使用され、英語本来の語義とは異なる。このように、*Anglizismen* はドイツ語で使用される際に英語の語義とは異なる語義となることがある。

深水(2018)は *smart* を対象に *Anglizismen* がドイツ語へ借用される際の語義について考察している。英語の *smart* はジーニアス英和大辞典によると、①利口な (*a smart boy, a smart reply, buy smart*) ②活発な (*a smart discussion, a smart pace*) ③エレガントな (*a smart restaurant, look smart*) ④厳しい (*a smart attack, a smart punishment*) ⑤ハイテクの (*a smart car, a smart house*) の語義がある。これらの語義はドイツ語にすべて取り入れられているのではなく、ドイツ語で *smart* を使用する際は第1の語義として *clever, gewitzt*, 第2の語義として *von modischer und auffallend erlesener Eleganz; fein* が DUDEN ONLINE で挙げられている。これは①利口な (*a smart boy, a smart reply, buy smart*) と③エレガントな (*a smart restaurant, look smart*) の英語の語義に対応するが、調査の結果、⑤ハイテクの (*a smart car, a smart house*) の語義も含有していることが判明している。一方で、借用されない語義もあり、それらの語義は文語で使用されていることが多く、口語で多く扱われる *Anglizismen* には適さないため借用されないと深水(2018)は指摘している。しかし、*smart* のみの調査結果であり、さらなる検証が必要である。

### 3. コーパスを用いた研究

現代ドイツ語に借用された英語の多義語の多義が借用の際にどのように受け入れられているかの調査を行った。なお、*smart* については深水(2018)で既に調査しているため、本稿では *clever* と *cool* について調査する。

#### 3.1 付加語形容詞として使用する *clever* の使用

共起語を調査することで、テキスト上で使用するその語の語義が判断できるため *clever* の共起語を調査した。*clever* は述語的用法および付加語的用法で使用される形容詞だが、本稿

---

<sup>13</sup> 英語 *vital* には「生死にかかわる」語義も確かに含まれるが、*a vital blow to the firm* のように比喩的に用いる場合に限っている。

では付加語的用法を調査することで、直後の共起語との関係に着目し、付加語形容詞として使用されている clever の用法のみに焦点を当て (&clever で検索)、COSMASII の全てのコーパスで抽出をした。

Clevere	cleverem	cleveren	cleverer	cleverere	clevererem	clevereren	clevererer	
14904	475	10502	12069	686	4	156	8	
Clevereres	cleveres	cleverst	cleverste	cleverstem	cleversten	cleverster	cleverstes	合計
9	1875	1	609	2	743	50	16	42109

&clever で表示した付加語的形容詞として使用する clever の総数と内訳

表 3<sup>14</sup>

コーパス検索の結果、表 3 に見られるように clever の語尾変化形として考えられる語は 42109 件がヒットした。使用数から判断して clever はドイツ語にすでに定着している Anglizismen の一つと考えられる。上記 42109 例のうち、本稿では 100 例を上位共起語の頻度順で抽出した。英語の clever は ①利口な (a clever boy) ②器用な (a clever magician) ③巧妙な (a clevere reply) ④抜け目のない (make a clever excuse) に分類される。これらの語義がはたしてドイツ語にすべて取り入れられているのかを知るために、ドイツ語で使用されている clever について共起語を調査した。以下では英語の辞書で挙げられている語義の順に従って、考察していきたい。なお DUDEN ONLINE で clever の語義は mit Schläue und Wendigkeit alle vorhandenen Fähigkeiten einsetzend und geschickt alle Möglichkeiten nutzend が示されている。これは①利口な (a clever boy)、③巧妙な (a clevere reply)、④抜け目のない (make a clever excuse) の英語の語義に対応すると考えられるが、本稿ではこの DUDEN ONLINE の記述がどの程度当てはまるのかも、コーパスのデータをもとに検証する。

第 1 の語義である「利口な」について見てみたい。

#### ① 利口な+人

(20)Der elfjährige Dominik Wirschnitzer ist ein cleverer Junge: Er hat bereits durchschaut, wie begehrenswert eine Anstellung als Bademeister ist.<sup>15</sup>

(21)"Er wollte uns wachrütteln, er ist ein cleverer Hund", sagte Manager Horst Heldt, der den gestern schwachen Mario Gomez mit Vehemenz verteidigte.<sup>16</sup>

<sup>14</sup> 2019 年 7 月 12 日時点で抽出した結果を示している。

<sup>15</sup> NUN01/AUG.01663 Nürnberger Nachrichten, 20.08.2001, S. 11; Bademeister: Keine Zeit für Flirts - Nixen sind tabu - Besuch im Stadionbad: Harte Arbeit rund um den Beckenrand

<sup>16</sup> HMP09/APR.00544 Hamburger Morgenpost, 05.04.2009, S. 9; Stuttgart siegt trotz Lehmann-Patzer

(20) ein cleverer Junge は Junge を共起語として clever を「利口な, 賢い」の語義として使用されている。(21) ein cleverer Hund は「利口な犬, 賢い犬」であり, clever は「利口な, 賢い」の語義で使用されていると考えられる。以上のように, ドイツ語の clever は, 借用元の英語と同様に「利口な」の語義を有している。

次に第2の語義である「器用な」について見てみたい。

## ② 器用な+人

clever が「器用な」の語義で使用されている例は存在しなかった。

次に第3の語義である「巧みな」について見てみたい。

## ③ 巧みな+事象, 対象物

(22) Grundsätzlich ist der fünfsitzige X4 mit dem cleveren Allradsystem xDrive ausgestattet.<sup>17</sup>

(23) Ein „Movie-Movie“, dessen clevere Kunstfertigkeit mitunter ebenso erdrückend wirken kann wie die schwüle Atmosphäre, die hier diese sonnengeplagten Nachtmenschen einlullt.<sup>18</sup>

(22) mit dem cleveren Allradsystem は車の技術に関する記事であり, Allradsystem (全輪システム) を共起語として, clever を「巧みな」の語義として使用されている。(23) clevere Kunstfertigkeit は「巧みな芸術性」として clever は「巧みな」の語義で使用されていると考えられる。以上のように, ドイツ語の clever は, 借用元の英語と同様に「巧みな」という語義を有している。

次に第4の語義である「抜け目のない」について見てみたい。「抜け目のない」語義は第1語義の「利口な, 賢い」の語義と解釈できる場合もあるが, ここでは否定的なニュアンスが含まれる場合に「抜け目のない」語義として使用することとしたい。

## ④ 抜け目のない+人, 対象物

(24) In diesem Spiel mit wenig Tormöglichkeiten holte sich die clevere Mannschaft die drei Punkte.<sup>19</sup>

(25) Heutzutage werde der clevere Geschäftsmann Bill Gates als Vollendung des Technologen angesehen, schreibt Laughlin, «doch meiner Ansicht nach war John Bardeen der wahre Held des elektronischen Zeitalters.<sup>20</sup>

(24) clever の共起語は Mannschaft であり, 「得点機会が少ない試合において準備を整え挑ん

<sup>17</sup> NON14/JUN.00131 Niederösterreichische Nachrichten, 05.06.2014; Konkurrenzlos in der Nische

<sup>18</sup> Z82/MAR.00268 Die Zeit, 19.03.1982, S. 45; Filmtips

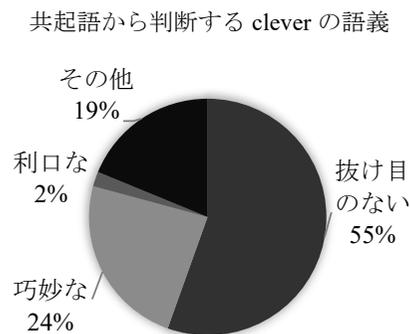
<sup>19</sup> A07/OKT.13622 St. Galler Tagblatt, 30.10.2007, S. 45; Heimmiederlage

<sup>20</sup> A07/OKT.02897 St. Galler Tagblatt, 06.10.2007, S. 25; Der Held aus der Touristenklasse

だ（抜け目のない）チームが3点を獲得した。」として clever は「抜け目のない」の語義として使用されている。(25) der clevere Geschäftsmann は後続の Bill Gates を指しており、彼は技術面において完璧と称される実業家であり、clever は「抜け目のない」の語義で使用されていると考えられる。以上のように、ドイツ語の clever は、借用元の英語と同様に「抜け目のない」という語義を有している。

以上のように、ドイツ語で使用されている clever を英語の clever の語義の観点から見ると、英語には存在している語義がドイツ語では見られない場合があることが判明し、smart 同様に語義の選択借用が観察された。

また上記した①「利口な」②「器用な」③「巧妙な」④「抜け目のない」で clever を分類した結果、ドイツ語で使用されている clever は DUDEN ONLINE が示しているように、③巧妙な (a clevere reply) と④抜け目のない (make a clever excuse) の英語の語義で使用されていることが明らかで、その使用は clever 全体の 8 割となっている。(グラフ 1)



グラフ 1

### 3.2 付加語形容詞として使用する cool の使用

3.1 clever のコーパス調査と同様、共起語を調査し (&cool で検索)、分析を行った。

&cool で検索した付加語的形容詞として使用する cool の総数と内訳

coole	coolem	coolen	cooler	coolere
25951	1080	18466	13570	423
coolerem	cooleren	coolerer	cooleres	合計
10	336	20	164	60020

表 4<sup>21</sup>

<sup>21</sup> 2019年9月4日時点で抽出した結果を示している。

コーパス検索の結果、表4に見られるように cool の語尾変化形として考えられる語は 60020 件がヒットした。使用数から判断して cool はドイツ語にすでに定着している Anglizismen の一つと考えられる。上記 60020 例のうち、本稿では 100 例を上位共起語の頻度順で抽出した。英語の cool は①涼しい、ひんやりとした、冷たい (a cool day, a cool dress) ②冷静な、冷淡な (a cool head, a cool greeting) ③厚かましい (a cool customer) ④すてきな、かっこいい (a cool guy) に分類される。これらを参考に、これらの語義がはたしてドイツ語にすべて取り入れられているのかを知るために、ドイツ語で使用されている cool について共起語を調査した。以下では英語の辞書で挙げられている語義の順に従って、考察していきたい。なお DUDEN ONLINE で cool の語義は第1の語義として die Ruhe bewahrend, keine Angst habend, nicht nervös [werdend], sich nicht aus der Fassung bringen lassend; kühl und lässig, gelassen, 第2の語義として keine Gefahren bergend, risikolos, sicher (-ein cooles Versteck, -das ist die coolste Art, den Stoff über die Grenze zu bringen), 第3の語義として keinen, kaum Anlass zur Klage gebend, durchaus annehmbar, in Ordnung (-1000 Euro ist doch ein cooler Preis für die Anlage), 第4の語義として in hohem Maße gefallend, der Idealvorstellung entsprechend (-auf der Fete waren unheimlich coole Leute, -die Musik war echt cool) が示されている。第2の語義についてはドイツ語で確立されたと考えられ、英語 cool の語義には含まれていない。その他の語義については英語の語義である②冷静な、冷淡な (a cool head, a cool greeting) と④すてきな、かっこいい (a cool guy) に対応すると考えられるが、本稿ではこの DUDEN ONLINE の記述がどの程度当てはまるのかも、コーパスのデータをもとに検証する。

第1の語義である「涼しい、冷たい」について見てみたい。

#### ① 涼しい、冷たい+対象物

cool が「涼しい、冷たい」の語義で使用されている例は共起語が英語の場合のみであった。以下の例文を見てみよう。

(26) Dixieland-Rhythmen, südländischer Risotto und coole Drinks, das ist der musikalisch-kulinarische Mix, den die Donnerstags-Gesellschaft arrangiert hat.<sup>22</sup>

(26)は cool の共起語として Drinks が用いられ、「冷たい」の語義として使用されている。

第2の語義である「冷静な、冷淡な」について見てみたい。

#### ② 冷静な、冷淡な+人, 対象物

<sup>22</sup> A99/APR.30217 St. Galler Tagblatt, 29.04.1999, Ressort: TB-OT (Abk.); Jazz-Open-air auf Kirchplatz Thal

(27)Ein Designer war ursprünglich mal ein Intellektueller und Denker. Heute muss man auch noch Unternehmer sein. Nach dem Motto: Wir sind die coolen Köpfe und machen gleichzeitig die großen Geschäfte in London.<sup>23</sup>

(27)は cool の共起語として Köpfe を用いており、cool は「冷静な」の語義で使用されている。このように、ドイツ語の cool は、借用元の英語と同様に「冷静な、冷淡な」という語義を有している。

第3の語義である「厚かましい」について見てみたい。

③ 厚かましい+人, 事象

cool が「厚かましい」の語義で使用されている例は存在しなかった。

第4の語義である「すてきな、かっこいい」について見てみたい。

④ すてきな、かっこいい+人, 対象物

(28)Und wenn die Lehrperson eine coole Sonnenbrille trägt, einen Baseballcap aufhat und während der ganzen Unterrichtszeit den Pausenplatz mit Musik beschallt, macht das Ganze, das auch eine Promotionstour für verschiedene Firmen ist, gleich doppelt Spass.<sup>24</sup>

(29)Alex' Pool Hall: Hier gehen nicht nur die Meister des Queues ein und aus. Die Pool Hall zählt mittlerweile zu den absoluten Favoriten der jungen Szene, vor allem Schüler und Studenten schätzen die coole Atmosphäre sehr.<sup>25</sup>

(28)は cool の共起語として Sonnenbrille を用いており、cool は「かっこいい」の語義として使用されている。(29)は cool の共起語として Atmosphäre を用いており、cool は「すてきな、良い」の語義として使用されている。以上のように、ドイツ語の cool は、借用元の英語と同様に「すてきな、かっこいい」という語義を有している。

以上のように、ドイツ語で使用されている cool を英語の cool の語義の観点から見ると、英語の第3の語義「厚かましい」がドイツ語では観察されないことや第1の語義「涼しい、冷たい」は英語との共起にのみ観察されており、smart や clever の場合と同様に語義の選択借用が観察された。さらに他の対象語との比較で英語の共起語が多いことが明らかになった。また、本調査では DUDEN ONLINE が示している第3の語義 keinen, kaum Anlass

<sup>23</sup> Z17/APR.00009 Die ZEIT, 06.04.2017, S. 30; 1

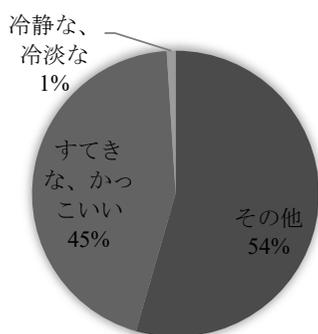
<sup>24</sup> A00/AUG.56821 St. Galler Tagblatt, 26.08.2000, Ressort: AT-APP (Abk.); Kein ganz normaler Unterrichtstag

<sup>25</sup> I00/FEB.08709 Tiroler Tageszeitung, 17.02.2000, Ressort: Allgemein; Szene-Treffs, die man erleben muss

zur Klage gebend, durchaus annehmbar, in Ordnung (-1000 Euro ist doch ein cooler Preis für die Anlage) は観察されなかった。

cool の共起語 100 例を上記①～⑤に分類すると、ドイツ語で使用されている cool は英語の語義のうち②冷静な、冷淡な (a cool head, a cool greeting) と④すてきな、カッコいい (a cool guy) の英語の語義で使用されており、その大部分が④すてきな、カッコいい (a cool guy) の語義で使用されていることが判明し、その使用は cool 全体の約 5 割となっている。また、ドイツ語で cool を使用する際にはその半数が英語として使用されていることが判明した (グラフ 2)。

共起語から判断する clever の語義



グラフ 2

### 3.3 借用されない語義

3.1 と 3.2 で調査した結果、英語に存在する語義の一部はドイツ語では使用しないことが判明した。しかし、このような語義でのドイツ語での使用は本当は見られないのだろうか。この点を確認するため、借用されない語義の共起語として考えられうる語と共に対象語をコーパスで抽出した。

#### 3.3.1 英語 clever の語義のうちドイツ語で使用されない語義

「器用な」という意味で使用される際の共起語として考えられる magician と hands に対応するドイツ語の名詞 Zauber と Hände が clever と共起することがあるかをコーパスで調査した。

(30)\* ? cleverer Zauber

(31)\* ? ein cleverer Zauber

(32)\* ? der clevere Zauber

(33)\*? clevere Hände

(34)\*? die cleveren Hände

調査の結果、以上のように (30-34) の組み合わせはヒットしなかった。この結果から clever を「器用な」の語義で使用しないと判断される。以上の結果より、clever の借用の際には英語の語義がすべてドイツ語に取り入れられるわけではなく、借用されるのはその一部の語義のみであることが判明した。

### 3.3.2 英語 cool の語義のうちドイツ語で使用されない語義

3.3.1 同様に英語 cool の語義のうち、ドイツ語に借用されていないと考えられる語義の調査を行った。英語 cool が「涼しい、冷たい」という意味で使用される際の共起語として考えられる wind と air, 「厚かましい」という意味で使用される際の共起語として考えられる lie と behaviour にそれぞれ対応するドイツ語の名詞 Wind と Luft, Lüge と Benehmen が cool と共起することがあるかをコーパスで調査した。

(35)\*? cooler Wind

(36)\*? ein cooler Wind

(37)\*? der coole Wind

(38)\*? coole Luft

(39)\*? eine coole Luft

(40)\*? die coole Luft

(41)\*? coole Lüge

(42)Die HipHop-Szene feiert ihn trotzdem als Superstar, denn sie zieht eine coole Lüge der lahmen Wahrheit vor. Und dann ist da natürlich dieser rauchige Bass.<sup>26</sup>

(43)\*? cooles Benehmen

(44)Vor allem ausländische Medien deuteten die moderat elegante Aufmachung und das coole Benehmen Zschäpes als Ausdruck der Verachtung gegenüber den Hinterbliebenen der zehn Mordopfer, die angebliche Selbstsicherheit der Angeklagten wurde bedauert.<sup>27</sup>

(45)Auf die Gruppen-Codes, also das richtige „coole“ Benehmen, auf Tanzrituale, das Zusammenleben in heruntergekommenen, zugigen Wohnungen, starrend vor Schmutz, rattenverseucht und schimmelig, oder gleich auf der Straße.<sup>28</sup>

<sup>26</sup> SOL10/SEP.00104 Spiegel-Online, 02.09.2010; Vom falschen Koks-König zum Knastwärter

<sup>27</sup> NZZ13/JUL.00462 Neue Zürcher Zeitung, 03.07.2013, S. 6; Die brave Geschäftsfrau und ihre Helfer

<sup>28</sup> T03/JAN.00431 die tageszeitung, 04.01.2003, S. 14, Ressort: Kultur; Das Beatmädchen

調査の結果、(35-41) および(43)の組み合わせはヒットしなかった。(42), (44), (45)については cool と共起するが「厚かましい」の語義ではないようだ。(42)の *eine coole Lüge* は直後の *lahmen Wahrheit* と関係し、「面白みのない真実より、いかした(クールな)嘘を好む」として、cool は「かっこいい、いかした」の語義で使用されている。Lüge との共起は不定冠詞と定冠詞を用いた場合、(42)の1件のみであった。次に、*Benehmen* との共起について見てみよう。Das coole *Benehmen* は2件ヒットし、(44) *das coole Benehmen* は10人の殺人を犯した *Zschäpes* 容疑者の「(残酷で)冷淡な態度」として使用されており、ここで使われている cool は「冷淡な」の語義で使用されている。(45) *das richtige „coole“ Benehmen* は後続するコンテキストより「厚かましい」の語義ではなく、「いかした態度」として使用されていると考えられる。この結果から、cool を「涼しい、冷たい」、「厚かましい」の語義で使用する例はドイツ語では存在しないと判断され、cool の借用においても英語の語義がすべてドイツ語に取り入れられるのではなく、借用されるのは一部の語義のみであることが判明した。

#### 4. 考察

対象の *Anglizismen* において、英語の語義は全てドイツ語に借用されず、英語との使用の差が観察された。なぜこのような現象が起きているのだろうか。その仮説として、*Anglizismen* の語が借用される際に、既に借用された語やドイツ語の既存語に配慮し、語義の選択借用がなされ、ドイツ語での使用語義や使用方法が決定していることが考えられる。深水(2018)によると *smart* の語義のうち「活発な」と「厳しい」はドイツ語に借用されていない(表5)。そもそも英語の *smart* について見てみると、「活発な」の語義は前置詞 *at, in* と共起し、*at a smart pace* (足早に)に見られるように付加語的に使用される。一方の「厳しい」の語義は用法に制限はないが、文語で使用する語義である。*Anglizismen* は口語での使用が一般的であり、また、特定の前置詞との共起が必要なこれらの語義は借用されないのだろう。

語義・用法・使用場面	ドイツ語への借用(付加語的用法)
利口な(主に米)・限定/叙述・口語文語	○
活発な・限定・文語	×
エレガントな(主に英)・限定/叙述・口語文語	○
厳しい・限定/叙述・文語	×
ハイテクな・限定/叙述・口語文語	○

表5<sup>29</sup>

<sup>29</sup> 深水(2018)を参考に、さらに用法と使用場面を追記している。

次に、clever について見てみよう。

語義・用法・使用場面	ドイツ語への借用（付加語的用法）
利口な・限定/叙述・口語文語	○
器用な・限定/叙述・口語文語	×
巧妙な・通例限定・口語文語	○
抜け目のない（英）・限定/叙述・口語	○

表 6

表 6 を見てみると、clever は使用場面が制約された語義はなく、smart との比較ではドイツ語に借用されやすいことが考えられる<sup>30</sup>。しかし、なぜ「器用な」の語義は観察できなかったのだろうか。英語の clever が「器用な」の語義で使用される例を見てみよう。

(46)He is clever at making model cars.

(47)He's clever with his hands.

(48)You tied your shoes up yourself? – What a clever girl! ジーニアス英和大辞典（2019）

(46)と(47)は叙述用法として使用され、(48)は限定用法として使用されている。(46)と(47)については「器用な」の語義で使用されているが、(48)は「靴ひもを自分で結べる」ことは「器用」だが、幼い少女に対しては「おりこうさん」という表現が適切だろう。以上のように叙述用法において使用されることの多い「器用な」の語義については、本稿の調査方法が叙述用法を含まないため観察されなかったと考えられ、今後さらなる調査が必要である。

最後に、cool について見てみよう。

語義・用法・使用場面	ドイツ語への借用（付加語的用法）
冷たい・限定/叙述・口語文語	×
冷静な・限定/叙述・口語	○
厚かましい・限定/叙述・口語	×
すてきな・限定/叙述・口語	○

表 7

<sup>30</sup> smart が付加語的に使用される調査結果は総数 20001 となっており（深水 2018）、clever が付加語的に使用される場合は総数 42109 であり、その使用数からも判断できる。

英語の cool の語義は、用法と使用場面に制約はないが、「冷たい、涼しい」と「厚かましい」の語義はドイツ語に借用されていない。(表7) 英語の cool が「冷たい、涼しい」と「厚かましい」の語義で使用される例を見てみよう。

- (49) Cooler weather is forecast for the weekend. オックスフォード現代英英辞典(2015)  
(50) There was a cool breeze blowing off the sea. ジーニアス英和大辞典 (2019)  
(51) It's cool of him to behave like that. ジーニアス英和大辞典 (2019)

(49)と(50)は「涼しい」の語義で使用され、(51)は「厚かましい」の語義で使用されている。(49)と(50)は限定用法で使用されており、clever の「器用な」の語義に見られた、叙述用法としての制限はないことが確認できる。一方で、「厚かましい」の語義で使用されている(51)は叙述用法として使用されており、用法の制限が語義に影響している可能性もあり、本稿の調査方法が叙述用法を含まないため観察されなかった可能性が考えられる。しかし、Anglizismen の cool はその約半数が「すてきな、かっこいい」の語義で使用されることから、「冷たい」というような性質・属性を表す語義はドイツ語では kalt, kühl が既にあり、人の評価・活動の評価を表す意味で、転義的な意味として cool 「すてきな、かっこいい」が用いられていると考えられる。

## 5. おわりに

先行研究では現代ドイツ語で使用される Anglizismen について、社会言語学的視点からの考察や形態的調査は数多くなされている。深水(2018)が意味的視点から、多義語の受容について調査し、統語的特徴については伊東(2021)で調査しているが、形態論的・統語論的・意味論的視点からの考察は未だ十分とは言えない。深水(2018)は Anglizismen の形容詞のうち smart のみを対象としており、十分な研究はなされていなかった。本稿では Anglizismen の形容詞において、「賢い」「かっこいい」という人の知性や評価の意味を表す形容詞 clever, cool, smart に焦点を当て、その語義の受容について調査した。その結果、Anglizismen がドイツ語に借用される際に、英語の語義が口語で使用されることが借用される要因であることと、ドイツ語で使用される際の語義が転義的な意味で使用されていることが判明した。さらに、本来のドイツ語の語ではなく、Anglizismen が使用される文脈もポジティブな評価を表す語義と関連することが判明した。

Anglizismen としてドイツ語で使用される形容詞は数多く存在しており、今回対象語とした3語以外に調査対象を広げ、借用語の一種である Anglizismen が現代ドイツ語でどのように扱われるかを言語学的観点から包括的に解明していきたい。

## 参考文献

- Burmasova, Svetlana (2010): Empirische Untersuchung der Anglizismen im Deutschen am Material der Zeitung Die WELT (Jahrgänge 1994 und 2004). Bamberg. University of Bamberg Press.
- Bußmann, Hadumod (2008): Lexikon der Sprachwissenschaft. Stuttgart. Kröner.
- Dewald, Regna (2008): Anglizismen in der deutschen Sprache Sprachwandel oder Sprachverfall? Saarbrücken, VDM Verlag Dr. Müller.
- Eisenberg, Peter (2001): „Die Grammatische Integration von Fremdwörtern: Was fängt das Deutsche mit seinen Latinismen und Anglizismen an?“ in Stickel, Gerhard (Hg), Neues und Fremdes im deutschen Wortschatz. 183-209.
- Eisenberg, Peter (2004): German as an Endangered Language? In: Gardt, Andreas/ Hüppuf, Bernd, Globalization and the Future of German. 121-137.
- Eisenberg, Peter (2011): Das Fremdwort im Deutschen. Tübingen. De Gruyter.
- Muhr, Rudolf (2002): Anglizismen als Problem der Linguistik und Sprachpflege in Österreich und Deutschland zu Beginn des 21. Jahrhunderts. Graz. Peter Lang Verlag.
- Schmidt, Wilhelm (2004) 『総論ドイツ語の歴史』西本美彦他訳, 朝日出版社
- Schmidt, Wilhelm (2007): Geschichte der deutschen Sprache Ein Lehrbuch für das germanistische Studium 10. Auflage. Stuttgart. Hirzel Verlag.
- Polenz, Peter von (2009): Geschichte der deutschen Sprache. Berlin/ New York. Walter de Gruyter.
- Polenz, Peter von (1999): Deutsche Sprachgeschichte Vom Spätmittelalter bis zur Gegenwart. Band III. 19. und 20. Jahrhundert. Berlin/ New York. Walter de Gruyter.
- Yang, Wenliang (1990): Anglizismen im Deutschen: am Beispiel des Nachrichtenmagazins Der Spiegel, Tübingen, Niemeyer.
- 伊東沙織 (2021) 「現代ドイツ語における Anglizismen の特徴の形態的・統語的考察—「賢さ」を表す形容詞の最上級の単独使用を例として—」 Southern Review 第 36 号, 沖縄外国文学会, 55-69.
- 沖森卓也・阿久津智 (2015) 『ことばの借用』朝倉書店
- 荻野蔵平・齋藤治之 (2015) 『歴史言語学とドイツ語史』同学生社
- 小野光代 (2008) 「現代ドイツ語に見られる Denglisch という現象について—グローバル化と英語の影響・ドイツ語と日本語—」現代の東西文化交流の行方—国際化と世界化の光と影—大阪教育図書株式会社, 171-189.
- 前田満 (2015) 「意味変化」『意味論』, 中野弘三 (編), 朝倉書店
- 深水沙織 (2018) 「現代ドイツ語の Anglizismen における多義語の受容—smart を対象としたコーパス調査とその考察—」 Southern Review 第 33 号, 沖縄外国文学会, 55-98.
- 福本喜之助, 寺川央 訳 (1975) 『現代ドイツ意味理論の源流』大修館書店

オックスフォード現代英英辞典 (2015) Oxford University Press.

ジーニアス英和大辞典 (2019) 大修館書店

独和大辞典 (2000) 第2版, 小学館

DUDEN Deutsches Universalwörterbuch, 6. Auflage (2007) Bibliographisches Institut GmbH,  
Mannheim.

DUDEN Die Grammatik Unentbehrlich für richtiges Deutsch Band4, 9. Auflage (2016) Dudenverlag,  
Berlin.

DUDEN ONLINE <https://www.duden.de/> (2021.8.18)

COSMAS II <https://cosmas2.ids-mannheim.de/cosmas2-web/> (2021.8.23)

# **Eine Betrachtung der Anglizismen-Adjektive in der deutschen Gegenwartssprache**

## **- Die Akzeptanz der Wortbedeutung von *clever*, *cool* und *smart*-**

Saori ITO

In der deutschen Gegenwartssprache können als Anglizismen bekannte Erscheinungen beobachtet werden, die als Denglisch bezeichnet werden und gegenüber der Benutzung des Englischen im Deutschen (englische Vokabeln, Phrasen usw.) eine „gefühlte“ Kritik erahnen lassen, wobei jedoch in dieser Arbeit gegenüber der Verwendung von Anglizismen eine neutrale Stellung eingenommen wird. Anglizismen sind Lehnwörter aus der englischen Sprache nach 1945, doch die Entlehnung aus den anderen Sprachen war keine neue Erscheinung. Daher sind Anglizismen schon immer ein Objekt der Forschung. Fukami(2018) betrachtet das sich unter den aufgelisteten Anglizismen befindliche englische Wort „smart“, das mit mehreren Bedeutungen verwendet wird, näher und hat darüber nachgedacht, in welcher Weise diese Mehrdeutigkeit in die deutsche Sprache aufgenommen wurde. Unter den in früheren Studien aufgezählten Anglizismen wähle ich für diesen Beitrag die Adjektive *clever*, *cool* und *smart*, die sich auf die „Intelligenz“ oder „schick“ beziehen und werde die semantischen Merkmale der weithin akzeptablen mehreren Bedeutungen der Anglizismen untersuchen.

Meine Korpusuntersuchung ergab, dass die Wortbedeutung „geschickt“ des Wortes „clever“ in der prädikativen Verwendung nicht ermittelt werden konnte. Bei „cool“ wird rund zur Hälfte als „schick“ oder „hübsch“ angewendet. Die andere Hälfte der Wortbedeutung von „cool“ wird mit der englischen Kookkurenz angewendet. Im Ergebnis stellt sich heraus, dass „clever“, „cool“ und „smart“ sich als eine Entlehnung mit nur wenigen Bedeutungen handelt.

In dieser Arbeit wurden die folgenden Ergebnisse aus der Umfrage gefunden und werden auf der Grundlage dieser berücksichtigt. (1) Anglizismen werden durch eine Wahl der Bedeutung entlehnt. Dabei werden die Wortbedeutungen der Anglizismen grundlegend der umgangssprachlichen Bedeutung entlehnt. (2)Die Wortbedeutungen der Anglizismen werden in Bezug auf die Verwendung und den Ausdruck im Englischen entlehnt. (3)Es ist schwierig, dass Polysemen, bei der eine bestimmte Bedeutung in der entlehnten Sprache besteht, für neue Bedeutungen entlehnt werden. Was darüber in Betracht gezogen werden kann, ist: (1)Anglizismen werden häufig umgangssprachlich verwendet, und das Entleihen kann auch dazu führen, dass die umgangssprachliche Bedeutung auf die deutsche Sprache entlehnt werden kann, (2)Entlehnt werden Anglizismen im Sinne der englischen Ausdrücke und nicht als Bedeutungen von Wörtern, und (3)Das polysomatische Wort wird vorzugsweise in der prototypischen Bedeutung entlehnt.